

第 144 回 池袋の河村常像、斎藤隆一像など

筆者：林 久治（記載：2021 年 1 月 4 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\)のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

昨年は、武漢肺炎に振り回された 1 年であった。正月には、シナ人観光客によりウィルスが持ち込まれ、不気味な時期であった。私共は 1 月 20 日から 27 日まで大阪の息子宅に滞在していた。その頃は、新幹線でもマスクを着けなかった。安倍首相は 4 月 7 日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の 7 都府県に緊急事態宣言を行い、4 月 16 日に対象を全国に拡大した。相前後して、志村けんさんは 3 月 29 日に、岡江久美子さんは 4 月 23 日に亡くなった。特に、岡江さんの死後、家内も胸苦しくなった。近所の医院でレントゲン撮ってもらい、異常が無かったので、一安心した。

私共は自粛生活を余儀なくされ、生活のリズムが狂った。5 月連休の頃は、日本全国の人出が無くなり、流行は終焉したかに思えた。7 月 2 日、東京都内の新規感染者は 2 カ月ぶりに 100 人を超えた。第 2 波の到来である。しかし、Go To トラベルは 7 月 22 日、東京を除外して始められた。8 月 2 日に、息子に東京に帰って貰い、暑い中で作業をして貰った。その夜、息子は 39.7℃の熱が出て、「これはコロナに違いない」と観念した。翌日、近所の医院で PCR 検査を受け、結果がでる 2 日間は家族 3 人は死ぬ思いで過ごした。幸い、結果は陰性で事なきを得た。

私共も、Go To トラベルの風潮に便乗して、11 月 4 日から 11 日まで大阪に滞在し、私共の金婚や孫娘の七五三を祝った。所が、この時期から第 3 波が到来し、東京では 12 月 5 日に 584 人、10 日に 602 人、17 日に 822 人、26 日に 949 人、31 日に 1337 人と、最大感染者数を更新し続けている。所が、ガースー首相や小池知事は他人事のように手をこまねいている。

私は 11 月に大阪近郊で銅像探索を久しぶりに行い、その探索記を [140 回の記/f](#)、[141 回の記事/f](#)、及び [142 回の記事/f](#) に記載した。私はそれ以後、東京での銅像探索や休日の水泳などの不要不急の外出を自粛することとした。ただ、自宅近所を散歩して、[前回の記事/f](#) を書いた。12 月 23 日は、銀行の用事があったので池袋に行き、そのついでに池袋付近で銅像探索を久しぶりに行った。本稿はその探索記である。本稿では資料からの引用を **緑文字** で、私の注釈や意見は **青文字** で記載する。

(2) 豊島岡女子学園の概要

今回行った銀行は東池袋にあったが、「決済まで約30分かかる」と言うので、銀行前にある豊島岡女子学園を偵察した。本校の周辺地図を図1に示す。



図1. 豊島岡女子学園の周辺地図。 本図は、[2\) のサイト/](#)より借用。豊島岡女子学園の場所を (+) で示す。

私はネット記事より、豊島岡女子学園（以後、本校と書く）に銅像が3体あることを知っていた。しかし、本校は女子校なのでガードが高いと思い、探索を遠慮していた。今回、たまたま本校の前に来たので、学校だけでも見てみようと思った次第である。本校の正門を次ページの図2に示す。本校の大学進学実績は女子御三家に迫る勢いらしいが、桜蔭の校舎に比べると、ずっと華やかな感じがした。

本校の正門の外から、玄関ホールの中を見ると、3体の胸像が設置されていた。私は「駄目もと」と思って、玄関の外に立っていた守衛さんに「中の銅像を拝見してもよいですか？」と恐る恐る訊ねてみた。すると、彼が「受付で聞いてください」と校舎に入れてくれたので、第一関門突破である。次に、受付のおばさんに名刺を差し出して、「銅像の写真を撮ってもよいですか？」と聞いてみた。彼女は自分では決めかねて、上席の上役に伺いを立てた。

すると、上役のオバアサンが出てきて、撮影の趣旨を聞いて来た。そこで、私は「定年退職後の趣味として、銅像研究をしています。日本全国の先生方の銅像の写真を撮って、先生方の業績を紹介するのが目的です」と、用意の答弁を行った。このようにして、首尾よく撮影許可を得ることが出来た。



図 2. 豊島岡女子学園の正門 本図は、3) のサイトより借用。

銅像探索を報告する前に、本校の概要をウィキペディア（豊島岡女子学園と二木謙一）を参考にして、以下に記載する。

1892年5月1日：河村ツネと2人の娘が東京府東京市牛込区下宮比町（現：新宿区下宮比町）に東京女子裁縫専門学校を創設。

1904年：東京家政女学校に校名変更。

1924年4月：東京市牛込区弁天町に牛込高等女学校を開校。

1933年3月：東大教授を定年退官した二木謙三が、牛込高等女学校の経営に参加。

1936年：東京家政女学校を廃止。

1940年：二木謙三が牛込高等女学校の第四代目校長に、第三代目理事長に就任。

1944年3月：豊島区日出町三丁目に牛込の借用校地と別に学校用地を買収。

1945年5月25日：東京大空襲により日出町の校舎が全焼。

1947年4月：日出町に女子中学校を設置。

1948年3月：日出町に女子高校を設置。

1948年10月：校名を豊島岡女子学園中学校・高等学校に改称。

1955年11月3日：二木謙三は文化勲章を授与される[32]。

1956年7月：校舎を全面改築。

1962年12月：二木謙三は学園長に就任し、第五代目校長・二木友吉となる。

1966年11月1日：住居表示に伴い日出町三丁目から東池袋一丁目となる。

2003年：二木友吉が病気療養のため校長を退職、長男の二木謙一が第六代校長に就任。

2013年：二木謙一は竹鼻志乃に校長職を譲り、理事長に就任。

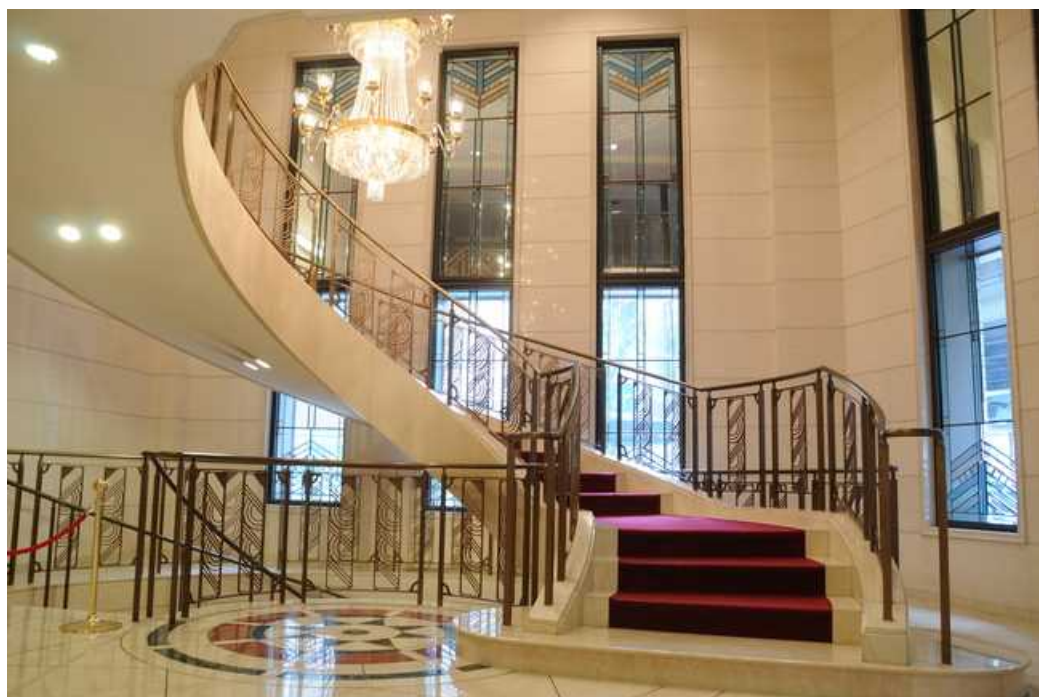


図3. 上：本校ホワイエのシンデレラ階段、下：本校校舎と運動場。本図は、[4\) のサイト/2](#)より借用。

本校は、池袋のビル街にあり、豪華な外装であるが、運動場などの施設はどうなっているのだろうか。ウィキペディア（豊島岡女子学園）によれば、本校には次のような立派な学校施設がある。

①本校舎：エントランス、ホワイエ、講堂、図書館、試食室、食堂、ギャラリー、展示ケース、茶室、音楽室、物理室、実験室、トレーニングルーム、体育館、屋上プール

②入間総合グラウンド：埼玉県入間市豊岡 4-7-44、西武池袋線 入間市駅下車 徒歩約 12 分

③小諸林間学校：長野県小諸市甲 4756、しなの鉄道 小諸駅下車、高峰高原行バス 御衣黄の里停留所下車 徒歩約 5 分

図 3 上には本校ホワイエのシンデレラ階段を、図 3 下には本校校舎と運動場を示す。

(3) 豊島岡女子学園の銅像

本校の正門から校舎に入ると、向かって左側に受付があり、向かって右側には 3 体の銅像が設置されていた。銅像の題字を図 4 に示す。銅像の配置は、向かって左から、河村常先生之像、二木健三先生之像、二木友吉先生之像であった。



図 4. 銅像の題字

左：河村常先生之像、
中：二木健三先生之像、
右：二木友吉先生之像。

河村常先生之像を次ページの図 5 に示す。本像台座の側面には銘文があったが、よく見えない場所にあり、しかも文字に風化している部分があり、全文を完全には判読できなかった。分かった範囲から銅像の概要を次ページに記載する。なお、本像の背面には「立体写寫像 発明者盛岡勇夫作」との銘があったと記憶している。



図5. 河村常先生之像

河村常先生之像

設置場所：豊島区東池袋 1-25-22 豊島岡女子学園玄関ロビー

設置時期：1930年胸像建立（戦時供出）、1962年創立70周年に再建。

製作：立体写真像 発明者盛岡勇夫作

設置経緯：河村常（ツネ、1848? - 1928. 8. 19）先生は加賀藩士結城五郎衛門氏の娘で、16歳で同藩士河村吉行氏に嫁ぎ、四男四女を挙げる。1892年5月1日に先生の娘2人と、牛込区下宮比町に女子裁縫専門学校を設立し専ら女子に必要な欠くことのできない裁縫を主として、一般家政の教育に専念。1924年東京市牛込区弁天町に牛込高等女学校を開校。1928年8月19日に病没、享80。

河村像の右にあった2体の胸像の写真を次ページの図6に示す。左が二木健三先生之像、右が二木友吉先生之像である。健三像には作者の銘がなかったが、外見から立体写真像と思われる。友吉像には「立体写真像 代表者盛岡公彦作」との銘があったと記憶している。（本文は、8ページに続く。）



名門三木家と号す 明治六年一月廿日山口県下関市に生れ 二木健三 長子 山口高等学校より東京帝國大学医学部を卒業し 東京市駒込病院に勤務 又東京帝國大学教授として研究と教育に勤め 病院長をも兼ね 医学界に多大の貢献をなす この間コレラの発見 鼠疫症 流行性脳膜炎の研究等が國に於ける偉業の極めて大なり 昭和二十六年日本学士院会員 更に同三十年に手せらる 先生は本学園創設者河村常子先生とは大学在学時より 白井政子先生の後を受けて第四代校長に就任す 太平洋戦争より あらゆる艱難辛苦を克服して本学園を再建せしめたる 偉大なる人格識見と不撓不屈の努力によるものにして 正に中興の立七十年の佳辰に當り 先生の徳功を永く伝へるべく
 昭和二十七年十一月
 二木 友吉

先生名は友吉 関山と号され 大正六年四月石川県七尾市増田多吉氏四男として誕生 昭和十五年國學院大学高等師範部を卒業 同時に東京陸軍航空学校歴史教科教官 同年十二月現役兵として中國大陸に出征 陸軍伍長に任ぜられ 昭和十八年十二月除隊 復職 終戦まで陸軍生徒の教育に専念される 昭和十五年二木謙三先生二女アツ氏と結婚 二男二女を挙げられる 昭和二十年十一月戦禍患えぬ半込高等女学校に奉職 爾來副校長・校長として戦後の学園復興に獅子奮迅の活躍をされ 東京西走よく再建の偉業を達成 学園の期待を完遂 昭和二十六年学校法人豊島岡女子学園設立と同時に理事に就任 更に常務理事・理事長として四十有余年経営の陣頭に立ち 学園の充実と発展に尽瘁 磐石の基礎を固められる 校舎の建築・校地の買収・林間学校の開設・運動場建設 更に新設高層校舎の新築・校舎建替え工事と新機軸を創出 戦後本学園に課せられた宿命的幾多の苦難と辛酸を嘗められ 課題を一身に背負い 粉骨碎身 渾身の力を傾け 身を挺して今日の隆盛を齎されましたのは 一に先生の不撓不屈の精神と堅忍不拔の教育への熱誠の賜物であり その功績と偉業は誠に顕著であります 都知事表彰・文部大臣表彰・藍綬褒章 更に教育功労者として昭和六十三年四月二十九日満七十一歳の誕生日 勲四等旭日小綬章を授与されましたことは 校友一同の名譽であり 学園の誇りであります 誠に先生の人格識見のしからむとくんと欽慕敬仰する校友同志鳩首して 古稀の壽に併せ叙勲を慶祝し 先生のご功績の不滅と今後も豐饒として益々学園の振興にお励みなさいことを祈念申し上げ 同窓会これを建立するものであります
 昭和六十三年十一月吉日
 本橋 藤治 謹記

図6. 上左：二木健三先生之像、上右：二木友吉先生之像、下左：健三先生之像の銘文、下右：友吉先生之像の銘文。

図6の両像にも台座に銘文があり、これらは解読出来た。これらの銘文とウィキペディアなどにより、両像の概要は次の通りである。

二木謙三先生之像

設置場所：豊島区東池袋 1-25-22 豊島岡女子学園玄関ロビー

設置時期：1962年に建立（創立70周年記念）

製作：立体写真像（盛岡勇夫が1927年に発明）

略歴：二木先生（ふたき、1873.1.10-1966.4.27）は本校の第4代校長（1940-1962）で中興の祖。1948年、校名を「牛込高等女学校」より「豊島岡女子学園中学校・高等学校」に改称。

胸像台座の銘文：先生名は謙三、素堂と号す。明治六年一月秋田市樋口順泰の二男として生まれ幼にして二木氏を継ぐ。山口高等学校より東京帝国大学医科大学に進み細菌学を専攻す。卒業するや直ちに東京市駒込病院に於いて伝染病の研究に励み、更にドイツに留学して、斯学の研鑽に励む。又東京帝国大学教授として研究と教育に精進すると共に、駒込病院長をも兼ね、医学界に多大の貢献をなす。この間コレラ菌、赤痢菌新種の発見、鼠咬症、流行性脳膜炎の研究等わが国における伝染病研究に寄与するところ極めて大なり。昭和二十六年日本学士院会員、更に同三十年十一月文化勲章を授与せらる。先生は本学園創設者河村常子先生とは大学在学時代より相い知る所となり、臼井政子先生の後を受けで第四代校長に就任す。太平洋戦争による廢墟に中より、あらゆる困難辛苦を克服して本学園を再建せしめたるは、一に先生の高邁なる人格見識と不撓不屈の努力によるもとして、正に中興の英主といふべし、創立七十周年の佳辰に当たり先生の功德を永く伝へるべく同窓会これを建立す。 昭和三十七年十一月 二木友吉 謹記

二木友吉先生之像

設置場所：豊島区東池袋 1-25-22 豊島岡女子学園玄関ロビー

設置時期：1988年11月（古希と叙勲記念）

製作：立体写真像 代表者盛岡公彦作

略歴：二木友吉先生（ふたき、1917.4.29-2009.9.27）は、謙三先生の女婿で本校の第5代校長（1962-2003）、本校の進学実績を向上させたことでも有名。なお、第6代校長（2003-2013）の二木謙一先生は友吉先生の子息で、有職故実研究の第一人者。

胸像台座の銘文：先生名は友吉、閑山と号され、大正六年四月石川県七尾市増田多吉氏四男として誕生。昭和十五年國学院大学高等師範部を卒業、同時に東京陸軍航空学校歴史科教官、同年十二月現役兵として中国大陸に出征。陸軍伍長に任じられ、昭和十八年十二月除隊。復職、終戦まで陸軍生徒の教育に専念される。昭和十五年二木謙三先生二女アツ氏と結婚二男二女を挙げらる。昭和二十年十一月戦禍癒えぬ牛込高等女学校に奉職。爾来副校長・校長として戦後の学園復興に獅子奮迅の活躍をされ、東奔西走よく再建の偉業を達成、学園の期待を完遂。昭和二十六年学校法人豊島岡女子学園設立と同時に理事に就任、更に常務理事・理事長として四十有余年経営の陣頭に立ち、学園の充実と発展に尽瘁、盤石の基礎を固められる。校舎の建築・校地の買収・林間学校の開設・運動場建設、更に新築高層校舎の新築・校舎建替え工事と新機軸を創出。戦後本学園に課せられた宿命的幾多の苦難と辛苦を嘗められ、課題を一身に背負い、粉骨砕身、渾身の力を傾け、身を挺して今日の隆盛を齎らされましたのは一に先生の不撓不屈の精神と堅忍不拔の教育への熱誠の賜物であり、その功績と偉業は誠に顕著であります。都知事表彰・文部大臣表彰・藍綬褒章、更に教育功労者として昭和六十三年四月二十九日満七十一歳の誕生日、勲四等旭日小綬章を授与されましたことは、校友一同の名誉であり、学園の誇りであります。誠に先

生の人格見識のしからしむるところと欽慕敬仰する校友同志鳩首して、古稀の寿に併せ叙勲を慶祝し、先生のご功績の不滅と今後も矍鑠として益々学園の振興にお励みなさいますことを祈念申し上げ、同窓生これを建立するものであります。

昭和六十三年十一月吉日 本橋藤治 謹記

なお、「齋す」は「もたらす」、「矍鑠」は「かくしゃく」と読む。

(4) 中央理美容専門学校の齋藤隆一像

目白駅の近くに中央理美容専門学校があり、その玄関前に銅像があるとのネット記事があった(5)のサイト/5)。1)のサイト/では、野外の銅像は殆ど収録されている。大都市で未収録な野外銅像は、人通りの少ない所にあるものである。自肅の時期に、屋内の銅像を拝見するのは気が引けるので、野外のものに越したことはない。本学の周辺地図を図7に示す。

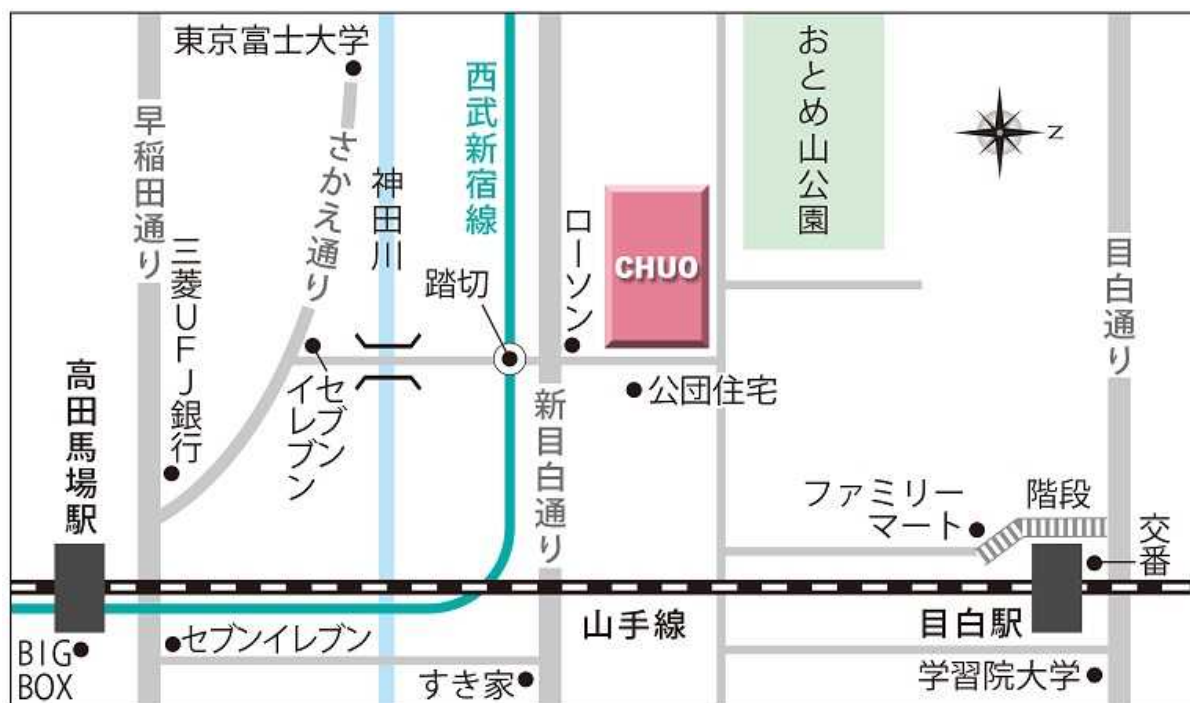


図7. 中央理美容専門学校の周辺地図 本図は、6)のサイト/より借用。

目白駅を降りて、学習院の外壁に沿って歩き、山手線のガードをくぐって、住宅街を行くと、都合約15分で本学に着いた。校舎は清潔な感じで、玄関前に1体の胸像が設置されていた。その写真を、次ページの図8上に示す。胸像と台座の銘文を図8下に示す。その他に、台座に「齋藤隆一先生」との題字があっただけで、齋藤先生の経歴や業績を示す銘文は無かった。

5)のサイト/5には次のように書かれていた。

入口に齋藤隆一先生胸像があった。皇室の御髪奉導役(おぐしほうどうやく)だったとのこと。1950年「齋藤会」という名称で学校を設立。中央理美容専門学校の創設者で理容の父と呼ばれるとのこと。

(本文は、11ページに続く。)



図8. 上：中央理美容専門学校の校舎と胸像、下左：斎藤隆一先生像、下右：中央高等理容専門学校沿革の銘文。

斎藤先生は上記のように偉い方であったわりには、ネット上では先生の経歴がきちんと書かれていない。そのため、散発的な記事を集めて、以下に示す。

① [7\) のサイト/1](#)

名 称：日本理容技学建設会、

所在地 〒164-0001 東京都中野区中野 3 丁目 48 の 23

本理容技学建設会は、会主斎藤隆一先生の徳を慕い、理容技学を学ぶ者が集い結成された光輝ある伝統の研究団体です。

皇室の御髪奉導役（おぐしほうどうやく）を承っておられた斎藤隆一先生は、過去において「見て覚える」とされていた理容技術の習得を理論づけ、我が国の理容技学の体系を最初に立てられました。

本会は斎藤隆一先生を中心として、理容技学の研究と向上を求め、昭和 25 年に業界教育のための指導者育成を目的として、自らが会長となり「斎藤会」という名称で設立されました。

昭和 36（1961）年、会主斎藤隆一先生、会長に吉田善七先生が就任されました。全国各地に本部を設置し同時に日本の理容の技術と学問を創りあげていく会「日本理容技学建設会」と会の名称を改めました。略して「日技会」といいます。



図 9．斎藤先生の画像 本図は、[7\) のサイト/1](#)より借用。

② [8\) のサイト/1](#)

斎藤隆一先生生誕 130 年記念大会 第 108 回全国研修会

2014 年 6 月 16 日 斎藤会館にて（従って、斎藤先生の生誕は 1884 年となる。）

③ [9\) のサイト/1](#)

斎藤隆一資料室オープン！平成 22 年 8 月 2 日（月） 斎藤会館 2F に斎藤隆一先生の資料室がオープンしました。（従って、武漢肺炎が収まったら、ここに行って、斎藤先生の資料を拝見する予定である。）

[10\) のサイト/f](#)

日本理容技学建設会の会主・斎藤 隆一先生のエピソード



図 10. 斎藤像の背面

斎藤像の背面には図 10 で示したような製作者のサインがあった。しかし、私には「俊夫」だけでは作者を同定することが出来ない。「俊夫 彫刻家」で検索すると、次の方々が現れたが、本像の作者とは確定出来ない。

①11) のサイト/1 : 小淵俊夫 (多摩美術大学大学院修了)、1957 年群馬県に生れる。
(若すぎて、この方ではない。)

②12) のサイト/9 : 彫刻家・鎌田俊夫さん (秋田高校昭和 38 卒) の作品が第 28 回東京二紀展に! (この方も、若すぎる。)

③13) のサイト/0 : 文化と交流 特集 生誕百年 彫刻家 門井俊夫 (2017.12)。
(この方は、木彫が専門。)

以上の資料より、斎藤隆一像の概要は次の通りである。

斎藤隆一先生像

設置場所：新宿区下落合 2-3-1 中央理美容専門学校前庭

設置時期：1966 年 2 月 6 日 (校舎移転記念)

製作者：俊夫？

略歴：斎藤先生 (1884-?) は皇室の御髪奉導役 (おぐしほうどうやく) を務め、理容の父と呼ばれる。1950 年、理容師の指導者養成を目的として本校を創立。

中央理美容高等学校沿革

全国理容連盟の初代理事長池田重吉氏は戦後理容界の復興を願い、斎藤隆一米倉近加川壮三郎大久保新一郎加藤忠一の諸先生を委託し教育委員会を組織した。斎藤先生は委員長としてともに全国を行脚しつつ昭和二十五年二月六日中央理美容高等学校を代々木に開設した。第二代理事長渡辺金蔵氏は委員会を解き、昭和二十七年五月斎藤先生を初代校長に酒井恒雄先生を副校長に迎えた。第三代理事長加川壮三郎先生のもと昭和二十九年四月本科を設置、同十一月第二代校長として米倉先生を迎えた。昭和三十二年二月学校法人全国理容学園を設立、加川氏はその初代理事長に就任し、学校は新法人の所属となった。学校法人第二代理事長高橋幸嗣氏のもと東大久保に新校舎を得て昭和四十年七月移転した。

ここに初代校長の胸像を設立するに当たり学校の沿革を記す。 昭和四十一年二月六日

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：
https://www.mapion.co.jp/phonebook/M11004/13116/ILSP0000040803_ipclm/
- 3) のサイト：[豊島岡女子学園中学校の算数分析 \(2018年 第1回\) | 自律学習サカセル \(sacacell.jp\)](http://www.sacacell.jp/)
- 4) のサイト：<http://st.veronahighschool.vidhyant.com/recommends/1072>
- 5) のサイト：<https://rubese.net/gurucomi001/?id=23055>
- 6) のサイト：<http://www.chic.ac.jp/>
- 7) のサイト：<http://nichigikai.com/mobile/html/k-gaiyou.html>
- 8) のサイト：<http://nichigi.blog14.fc2.com/blog-entry-327.html>
- 9) のサイト：<http://www.kyoiku.skr.jp/info.html>
- 10) のサイト：<https://nrg-tokyo.com/wp-content/uploads/2019/09/45f560bc4a65b50e8c0265f582f5c191.pdf>
- 11) のサイト：<https://sites.google.com/site/rakanseisaku/eee-1>
- 12) のサイト：<http://akitahs-doso.jp/news/409>
- 13) のサイト：<https://ilisod001.apsel.jp/hikari-library/sp/bib/282050>